

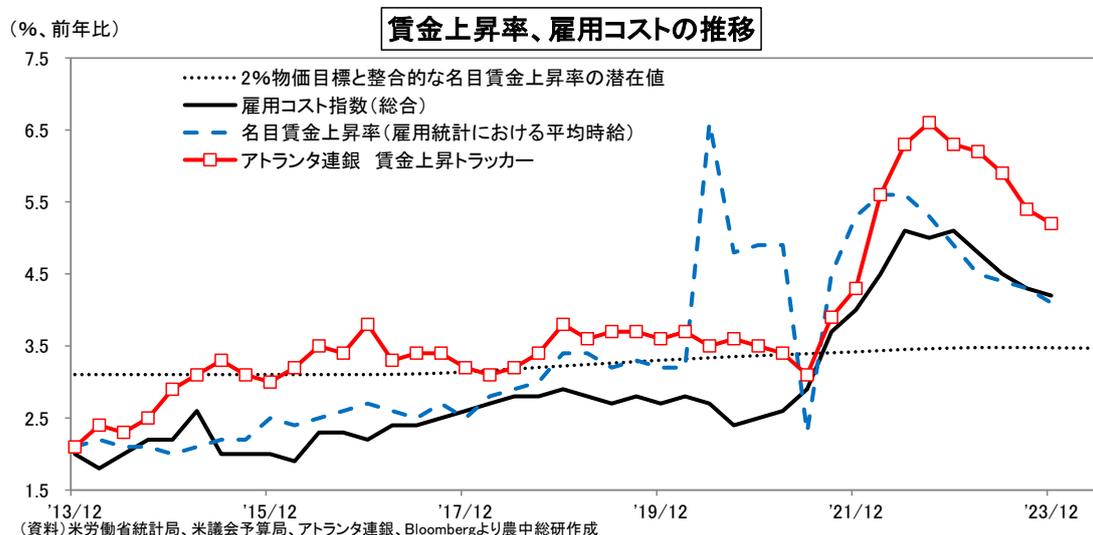
(米国)3月利下げに否定的な内容となった1月 FOMC

1月 FOMC(30、31日)では、4会合連続での政策金利の据え置き(5.25~5.50%)が決定された。FOMC 声明文には、インフレ率は抑制が進んでいるものの依然としてFRBの目標とする2%を上回っていると、2%へ回帰するとの自信が十分に深まるまでは利下げを行わない方針が記された。また、FRBのバランスシートについては、事前に公表したペースでの縮小を継続することが記された。

FOMC後の記者会見においてパウエル議長は、3月 FOMC(19、20日)までに、FOMC参加者が「3月 FOMCからの利下げが適切と判断できる状態」になっているとは思わないと述べることで、3月 FOMCでの利下げに対して否定的な見解を示した。

1月 FOMCでは、インフレ率が2%へ回帰していくことについての自信や確信といった、経済見通しに対するFOMC参加者の評価がポイントとなったと思われる。実際に、10~12月期のGDP成長率は前期比年率3.3%と、1.8%程度と目される潜在成長率を上回って推移しており、米国経済の速いペースでの成長が続いている。この点は、インフレ率が再加速する懸念が拭い切れないとの評価につながっていると思われる。

一方で、労働市場の抑制も着実に進んでおり、1月31日に公表された23年10~12月期の雇用コスト指数の3月前比は0.9%上昇、年率換算では3.5%上昇とかなり鈍化した(前年比は4.2%)。



また12月のコアPCEデフレーターからは、足元のインフレ率が年率換算で2%程度での推移となっていることも確認できる。経済成長率がもう少し減速すれば、利下げを開始することに対してFOMC参加者の自信が深まると思われる。筆者としては、引き続き6月 FOMCからの利下げ開始を想定している。

